

海明けて

八劔神社 宮司 宮坂清

2023年から2024年にかけての冬の諏訪湖は、全面結氷することがなく、御渡りも顕われなかった。6年連続の明けの海である。

1月6日より30日間、毎朝観察を続けてきた。今年こそ御渡り拝観の神事を行うことを望んでいたが、薄氷が広がるのみ。気温は平年より高く、一番冷え込む1月20日前後の5日間はプラス3度から5度。しかも2日間は雨降りの異常であった。

1987年以降の33年間で御渡りが発生した年は9回のみであるから、気候変動による結氷の変化は顕著である。それは582年にわたり書き継がれてきた記録が語るものであり、『御渡帳』はまさに先祖が残してくれた宝物である。

夏は暑く冬は寒いのが自然の摂理。御渡りが顕われると本格的な冬の訪れを感じ、春を待つ心構えができる。結氷しない湖に感じる不安。

諏訪湖の氷が自然のメッセージと受け止める。

そういえば諏訪湖で越冬する白鳥や水鳥の飛来も今冬は極端に少なかった。

短編映画『御渡り』が入賞したことは望外の喜びであり、気候変動の認知を広げる審査員に敬意を表したい。今後も諏訪湖の観察、記録、拝観神事を継承していきたい。2月17日、八劔神社で「明けの海」であった旨の奉告祭を行った。災害のない穏やかな地球であることを祈って。